物 質 名	3,4-ジメチルアニリン			DB-28
	3,4-キシリジン	構造式		
別 名	1-アミノ-3,4-ジメチルベンゼン		CH	
	3,4-ジメチルベンゼンアミン		CH₃ 	(4) (44)
CAS 番号	95-64-7			CH₃
PRTR 番号	第1種 164			
化審法番号	3-129		H <sub>2</sub> N	
分子式	$C_8H_{11}N$	分子量	121.18	
沸点	228 °C 1)	融点	51°C ¹)	
蒸気圧	6.27 Pa(4.7×10 <sup>-2</sup> mmHg)(25℃推定値) <sup>2)</sup>	換算係数	1 ppm = 4.96 n	$mg/m^3$ (25°C)
分配係数(log P <sub>ow</sub> ) 1.84 <sup>3)</sup>		水溶性	3.8 g/L (22°C)	4)

## 急性毒性

動物種	経路	致死量、中毒量等	
マウス	経口	$LD_{50}$	707 mg/kg <sup>5)</sup>
ラット	経口	$LD_{50}$	812 mg/kg <sup>5)</sup>

## 中・長期毒性

・ラットに 0、10、50、250 mg/kg/day を 28 日間強制経口投与した結果、50 mg/kg/day 以上の群の雄ほとんどに尿細管の硝子滴変性がみられ、雌ではコレステロールの有意な増加と肝臓の肥大がみられた。この他の影響は 250 mg/kg/day 群に限られ、流涎、体重増加の抑制、肝臓及び脾臓重量の増加、睾丸相対重量の増加、雌で副腎相対重量の減少、ヘマトクリット値、ヘモグロビン、赤血球の減少、血小板、網状赤血球、GPT、総ビリルビンの増加に有意差を認め、脾臓で肥大や充血及び造血亢進、肝臓で肥大や肝細胞腫脹、単細胞壊死、髄外造血、クッパー細胞の色素沈着、骨髄で造血亢進などがみられた。この結果から、NOEL は 10 mg/kg/dayであった。

### 生殖・発生毒性

- ・ラットに 0、10、50、250 mg/kg/day を 28 日間強制経口投与した結果、250 mg/kg/day 群で睾丸相対重量の増加を認めた。しかし、対脳重量比でみた場合には対照群と差がなかったことから、体重増加の抑制による結果と考えられた。また、卵巣重量に影響はなかった  $^6$  。
- ・マウスに 100 mg/kg を腹腔内投与した結果、睾丸で DNA 合成を阻害した  $^{7)}$  。

#### ヒトへの影響

- ・本物質及びその異性体の混合物は、眼、皮膚、気道を刺激し、高濃度の暴露ではメトヘモグロビン血症を生じる場合がある。眼や皮膚に付くと発赤や痛み、吸入や経口摂取するとチアノーゼ、錯乱、痙攣、眩暈、頭痛、吐き気、意識喪失を生じ、長期又は反復暴露では、血液が影響を受けて貧血を起こすことがあり、腎臓や肝臓への影響もみられることがある<sup>8)</sup>。
- ・40 ppm  $(200 \text{ mg/m}^3)$  のジメチルアニリンに 60 分間暴露されると重度の中毒を生じ、10 ppm  $(50 \text{ mg/m}^3)$  でも暴露が長引くと健康影響を惹起すると報告されている  $^{9)}$  。

#### 発がん性

IARC の発がん性評価:評価されていない。

# 許容濃度

ACGIH 10)	0.5 ppm(2.5 mg/m³) (異性体混合物として)
日本産業衛生学会	_

## 暫 定 無 毒 性 量 等 の 設 定

経口暴露については、ラットの中・長期毒性試験結果から NOEL 10 mg/kg/day (肝臓の肥大、尿細管の硝子滴変性)を採用し、試験期間が短いことから 10 で除した 1 mg/kg/day を暫定無毒性量等に設定する。

吸入暴露について、暫定無毒性量等の設定はできなかった。

#### 引用文献

- 1) Lide, D.R., ed. (2002-2003): CRC Handbook of Chemistry and Physics, 83rd ed., Boca Raton, London, New York, Washington DC, CRC Press, pp. 3-22.
- 2) U.S.EPA, MPVPWINTM ver. 1.41.
- 3) Johnson, C.A. and Westall, J.C. (1990): Effect of pH and KCl Concentration on the Octanol-Water Distribution of Methylanilines. Environ. Sci. Technol. 24:1869-1875.
- 4) BEILSTEIN. ON-LINE DATABASE. BATCH RETRIEVAL DURING 1991. BEILSTEIN INFORMATION SYSTEMS, INC. (HTTP://WWW.BEILSTEIN.COM) [U.S.EPA, WSKOWTM ver. 1.41]
- 5) US National Institute for Occupational Safety and Health Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS) Database.
- 6) 化学物質点検推進連絡協議会(1996): 3,4-ジメチルアニリンのラットを用いる 28 日間反復経口投与毒性試験. 化学物質毒性試験報告. 3: 143-156.
- 7) Seiler, J.P. (1977): Inhibition of testicular DNA synthesis by chemical mutagens and carcinogens. Preliminary results in the validation of a novel short-term test. Mutat. Res. 46: 305-310.
- 8) IPCS (2004): Xylidine (Mixed isomers). International Chemical Safety Cards. 0600.
- 9) Goldblatt, M.W. (1955): Research in industrial health in the chemical industry. Br. J. Ind. Med. 12: 1-20.
- 10) ACGIH (2001): Documentation of the Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices.